

研究指導 八木橋 彰 講師

オーナー制度における地区の選択要因

田子 綾乃

1. はじめに

近年、グリーンツーリズムを行う地域が数多く存在する。農林水産省では、グリーンツーリズムは農産漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動であると定義されている。滞在の期間は日帰りの場合から、長期的または定期的・反復的な(宿泊・滞在を伴う)場合までさまざまである。このグリーンツーリズムの一環として多くの地域で取り組まれているのが棚田オーナー制度である。棚田オーナー制度は平成4年に高知県梶原町で初めて開始された、都市住民に直接耕作に関わってもらいながら棚田を保全していくという方法である。このようなオーナー制度は棚田を利用したものだけではなく、様々な作物を利用したものが存在する。

現在、日本全国の多くの地区でオーナー制度が行われるとともに、種類や受け入れ組数の多様化が生じている。

福島県においては、東日本大震災による被害を受け、多くの畑や田んぼが放棄された。その改善策として福島県の田んぼの保全を目的とする活動が盛んに行われている。その活動の一環として棚田オーナー制があるが、棚田オーナー制が盛んになるとともに、その他の作物のオーナー制も盛んになっている。

このように、オーナー制度を実施する地区の増加に伴い、地区間でのオーナーの獲得競争が生じており、オーナーにとっては選択できる地区が増加することにつながっている。

そこで、本研究では、オーナーが参加する地区を選択する要因について調査し、どのような要因がオーナー数の増減に関わっているのかを考察していく。

2. 先行研究

今回の研究テーマを調査するにあたり、以下の3つの先行研究を取り上げる。

山本ら(2001)では、房総半島南部に位置する鴨川市大山千枚田を事例として、オーナー制度におけるオーナーの行動並びに意識を、アンケートを用いて調査した。その結果、棚田オーナー制度に継続して参加しているオーナーは棚田の保全活動を目的とし、活動によってその期待は満たされると推測した。また、オーナー個人の期待の差にもよるが、作業や来訪の際に、より多く地元住民との交流機会を設け

ることがオーナーの活動継続のためには最も効果的であると推測している。

浦出・宇山(2003)では、奈良県明日香村を事例としてオーナー制度の会員のニーズと行動を探ることを通じて、会員が次年度への継続意思を決定する要因について考察している。その結果、オーナー制度の活動に参加するかどうかは、参加者の期待するレクリエーション的ニーズがどの程度満たされるのかに依存していると推測した。また、次年度継続して参加するかどうかは、どの程度農業的な要素が含まれているかどうかによって依存すると推測している。

寺田・吉田(2005)では、棚田オーナーの継続要因や棚田オーナー制度実施地区の持続性の要因を統計的に調査した。その結果、棚田オーナーは栽培指導体制などが整っている環境で農作業を行い、農作物をより多く獲得することを求めている傾向があると推測した。また、片道移動距離が長いオーナーほどオーナー契約を継続しない傾向があると推測している。

3. 本研究の新規性と仮説

3.1 新規性

先行研究ではオーナー制度に参加するかどうかは参加者の期待するレクリエーション的ニーズがどの程度満たされるかによるとしている。また、継続するかどうかは地元農家の指導や人との触れ合いに満足しているか、農業的な要素が含まれているかによるとしている。

これらの研究では、オーナーの行動や意識、ニーズ、持続要因についての調査を行っているが、どの研究も調査対象がオーナーだけであり、アンケート調査を用いた研究である。また、研究の多くが10年以上前に調査を行ったものである。そのためオーナー制度の活動プログラムや、オーナー制度の主催者の考えがわからない。さらに、アンケート調査のみではより深いオーナーのニーズがわからないことや、現在のオーナーのニーズが10年以上前と変わっている可能性があることが先行研究の課題とされる。そこで本研究ではオーナー制度のプログラムとオーナーのニーズの一致がどのようにオーナー制度に参加する地区を選択する際に関わっていくのかを調査していき、現在のオーナーの地区の選択要因について考察していくことを新規性とする。

3.2 仮説

先行研究同様、オーナー制度に参加するかどうかは参加者の期待するレクリエーション的ニーズが満たされるかによると仮説づける。そのため、オーナーは参加する地区を選択する際に、自分のニーズに合った地区を選択するのではないかと考える。そのニーズとしては農作業体験を行いたいことと、地区の人々と触れ合いたいということが挙げられ、自分が行いたい体験ができる地区や、地区の人々とより良い関係を築ける地区を選択するのではないかと考察する。また、ニーズが満たされるということはオーナー制度の活動プログラムとオーナーのニーズが一致しているということであるため、オーナーのニーズと主催者側がオーナーに提供することや活動プログラムの一致がオーナー制度に参加することや継続することにつながると仮説づける。さらに、先行研究では片道移動距離が長いほどオーナー契約を継続しない傾向があるとしている。しかし、本研究で調査対象とする2つの地区は近い距離に位置するが、オーナー数に差が生じているため、移動距離は地区を選択する際にあまり関係しないのではないかと考察する。

4. 調査概要

4.1 調査目的

インタビュー調査を行い、オーナーがオーナー制度に参加する地区を選択する際に重要視することを調査する。また、オーナーだけでなくオーナー制度の主催者も調査対象者とする事でオーナーのニーズとオーナー制度の活動プログラムや主催者の考えが一致しているかどうかを調査する。

4.2 調査方法

オーナーのより深いニーズと、主催者が考えるオーナー制度を行う意義を探るため、以下のような日程でインタビュー調査を実施した。

- ① 福島県柳津町久保田地区棚田オーナー制度の主催者(調査日:2020年1月15日)
- ② ①のオーナー制度に参加するオーナー(調査日:2019年10月5日)
- ③ 福島県三島町大石田地区そばじゃがいもオーナー制度の主催者(調査日:2019年11月4日)
- ④ ③のオーナー制度に参加するオーナー(調査日:2019年11月4日)

本調査の対象として久保田地区と大石田地区のオーナー制度の主催者とオーナーを選択した理由としては、オーナー数の定員を常に満たしている地域と、年々オーナー数が減少している地域を比較し、その現状の要因を考察することが挙げられる。

4.3 調査内容

本調査の調査項目は以下のとおりである。

【対象者:オーナー】

1. 住所
2. 参加している年数
3. 参加しようとした動機・きっかけ
4. 現在参加している地区を選択した理由
5. その地区のオーナー制度を知ったきっかけ
6. オーナー制度に期待していること・求めていること
7. 地区を選択するうえで重要視すること
8. その地区のオーナー制度に参加してよかったこと
9. 改善して欲しいこと・要望
10. オーナー制度の頻度についてどう思うか
11. 地区の人々やオーナー同士の関わり方や触れ合いなどは、参加する地区を選択するうえで重要視するか
12. その関わり方などは選択した地区のオーナー制度を継続するうえで重要視するか
13. 活動の際に、どのような対応・触れ合い方がよかったか
14. オーナー制度が行われる地区の立地やその地区へのアクセスのしやすさは、参加するオーナー制度を選択するうえで重要視するか
15. 現在参加している地区のオーナー制度への参加を継続したいと思うか
16. その理由は何か

【対象者:主催者】

1. この地区のオーナー制度はいつから行っているか
2. オーナー制度を行う目的は何か
3. オーナー数の増減はどのようになっているか
4. この現状についてどう思うか
5. 今後どのようにしたいと考えるか
6. オーナー制度の情報の発信方法はどのようにしているか
7. この地区のオーナー制度の特徴は何か
8. 他の地区との違いや強みは何か
9. その作物を活用したオーナー制度を行うきっかけは何か
10. オーナーに楽しんで欲しいことは何か
11. 改善していきたいことは何か
12. 地区に課題はあるか
13. 新たに取り組んでいきたいことは何か

4.4 インタビュー調査結果の要約

4.4.1 調査対象者:オーナー

参加するきっかけや、オーナー制度に参加する地区を選択する際に重要視することについての質問の

回答は次のように要約することができる。なお、調査対象者はオーナーA(久保田地区の参加者)、オーナーB(大石田地区の参加者)とする。

オーナーAはオーナー制度に一年目から参加し、インタビュー当時では11年連続でオーナー契約を継続している。オーナー制度に参加しようとしたきっかけについての質問には、もともと田園風景に興味があり、新聞に記載されていた記事で久保田地区のオーナー制度を知ったことであると答えた。また、参加した当時、オーナー制度を行う地区が少なかったことが現在参加している地区を選択した理由につながっている。さらに、オーナー制度に参加して良かったことは何かという質問には、オーナー制度の役員や、地区の人々、他のオーナーと出会えたこと、自然と触れ合えたこと、方言にふれることができたことなどであると答えた。地区の人々やオーナー同士の関わり方や触れ合いはオーナー制度に求めていることであり、地区を選択するうえで重要であると話し、その関わり方などはその地区のオーナー制度に継続して参加するうえで重要であると回答した。どのような対応や触れ合いが良かったかという質問には、役員が運動会やお祭りなどといったオーナー制度の活動プログラム以外の地区の行事をオーナーに紹介し、一緒にその行事に参加させてくれたことが良かったと回答した。人々との触れ合いの他に、参加する地区を選択するうえで重要視する項目として、地区へのアクセスのしやすさと、収穫できる作物について質問したが、どちらも重要視しないと答えた。居住地とオーナー制度を行う地区の距離は遠いとは感じるが苦ではなく、訪れる際に地区に近づくにつれてもうすぐ会えるという気持ちが高まることや、同行者との会話をする機会になるという良い点があると話した。そして、現在参加している地区のオーナー制度への参加を継続したいかという質問には継続したいと答え、地区の方に会うことや地区を訪れることで元気になれることや、オーナー同士や地区の人々と親戚のような関係を築けることができていることが理由であると話した。

一方、オーナーBはオーナー契約を行って1年目であり、友人が大石田地区のオーナーであり、美味しいそばが食べられると知ったことが参加したきっかけであると話した。オーナー制度に参加して良かったことは何かという質問には、地区の人々と触れ合えたことや美味しい食事をとれたことであると回答した。また、オーナーAと同様に地区の人々やオーナー同士の関わり方や触れ合い方は地区を選択するうえで重要視するとし、その関わり方などはその地区のオーナー制度に継続して参加するうえでも重要視すると話した。どのような対応や触れ合い方が良かったかという質問には、収穫祭のときに地区の方々が、語り部として地区に伝わる物語を聞かせてくれたことや、踊りを披露してくれたことなどといった、温かく歓迎して

くれている雰囲気が良かったと回答した。さらに、地区へのアクセスのしやすさや、収穫できる作物、農業体験の種類や有無は参加するオーナー制度の地区を選択するうえで重要視するかという質問には、重要視するのは作物だけであると答えた。アクセスはしやすい方が良いがそれほど重要視せず、農作業は虫が苦手なため、あまり行いたくないと話し、収穫できる作物は、自分ではあまり買わないものを選ぶと回答した。そして、オーナー制度に期待していることは食事であるとし、現在参加している地区のオーナー制度への参加を継続したいかという質問には、継続したいと答えた。その理由は、その地区ならではのご飯が食べられることや、地区の人との触れ合いが楽しいことであると話した。

4.4.2 調査対象者:主催者

オーナー制度を行う目的や、現状、主催者側の考えなどについての質問の回答は次のように要約することができる。

久保田地区のオーナー制度は2009年から行われ、10年間続いている。オーナー数は19組から始まり、毎年あまり大きな変化はみられず、最低組数は16組、最高組数は22組である。開始した当初は読売新聞や仙台市の新聞にオーナー募集の記事を掲載させる方法や、町の広報誌に掲載するといった方法で募集を行っていたが、現在は毎年オーナー数の定員を満たしているため情報発信を行っていない。この地区のオーナー制度の特徴について質問したところ、主催者側はオーナーと役員との心の距離が近いことであると回答した。また、他の地区との違いは、自然が豊かで景色が良いことや、美味しい食事が提供されることであると話した。さらにオーナーに楽しんで欲しいことは何かという質問には、農作業体験や山菜採り、収穫祭、食事や文化を楽しんで欲しいと回答した。

一方、大石田地区のオーナー制度は2011年から行われ、8年間続いている。オーナー数は12・13組が多く、最高で17組であったが、現在は減少し、7組である。パンフレットを役場の職員と協力し作成し、地方などの道の駅においてもらうというような募集方法を取り入れている。また、ホームページにも募集内容を掲載している。この地区のオーナー制度の特徴についての質問には、主催者側は役員がオーナーを迎えるために一生懸命やることであると回答した。また、他の地区との違いは何かという質問には、そばを作物としてオーナー制度を行っていることであると答えた。さらに、オーナーに楽しんで欲しいことは何かという質問では、そば打ちなどの体験や収穫祭を楽しんで欲しいと回答した。

5. まとめと考察

本調査の結果、オーナーは参加する際に、参加

する地区へのアクセスのしやすさや農作業体験はあまり重要視しないことが分かった。また、調査を行ったオーナーは2組とも、オーナー制度への参加を継続するうえで一番重要視することは役員や地区の人々との触れ合いであるということが判明した。

また、主催者側はどちらの地区とも、収穫祭や農作業体験をオーナーには楽しんで欲しいと考えていることが分かった。さらに、どちらの地区もオーナーをもてなし、楽しんでもらえるようにすることを心掛けているということも判明した。

これらの結果から、オーナーは農作業体験をしたいということと、地区の人々と触れ合いたいというニーズを持ち、そのニーズに合った地区を選択するのではないかという仮説は、不成立であるといえる。しかし、オーナーは地区の人々と触れ合いたいというニーズを持っているという仮説は成立した。また、調査した地区のどちらの地区も、オーナーに対するもてなしの心を大切にしていることから、地区の人々と触れ合いたいというニーズは満たされると考える。そのことがオーナー制度の継続につながっていると考察できるため、オーナーのニーズと主催者側の考えの一致がオーナー制度の参加継続につながるといふ仮説は成立すると言えよう。さらに、調査対象である2組のオーナーともに、アクセスはしやすいほうが良いとしていたが、地区を選択するうえでは重要視しないと回答したため、オーナー制度に参加するための移動距離は地区を選択する際に関係しないのではないかという仮説は成立することが分かった。

以上のことから、オーナーを獲得することにはオーナーとの触れ合い方が大切になると考えられる。久保田地区のオーナー制度では活動プログラムだけでなく、地区の行事などにもオーナーを招き、一緒に参加するなど、役員や地区の人々とオーナーのつながりが深いことが調査の結果判明し、このつながりがリピーターを増やすことにつながっていると考察する。そのため、オーナーの減少を防ぐためにはより深い関係をオーナーと地区の人々との間で築いていくことが重要であると考えられる。

6. 今後の課題

本研究では、オーナーに対するインタビュー調査の調査対象者が、それぞれの地区に対し1組ずつであったため、回答が偏ってしまい、他のオーナーニーズが分からないことが課題として挙げられる。また、2つの地区のみでの調査であったため、収穫できる作物が異なった地域での調査を行えば、他のニーズを知ることができたのではないかと考える。

7. 謝辞

ご多忙の中、インタビュー調査へ協力して下さった、大石田地区と久保田地区のオーナー制度の役

員の皆様、オーナーの皆様には厚く御礼申し上げます。

参考文献

- [1] 「グリーン・ツーリズム」とは: 農林水産省
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/kyose_tairyu/k_gt/
- [2] 棚田百貨堂 | 棚田オーナー制度の成り立ち
<http://www.tanadaowner.com/consist.html>
- [3] 山本若菜・山路永司・牧山正男(2001)「オーナー応募者の行動からみた棚田オーナー制度の継続性—鴨川市大山千枚田を事例に—」『農村計画学会誌/農村計画学会 編 第20巻』pp199-204
- [4] 浦出俊和・宇山満(2003)「オーナー制度における参加者のニーズと行動に関する一考察」『農林業問題研究 第39巻1号』pp55-59
- [5] 寺田憲治・吉田謙太郎(2005)「棚田オーナー制度の持続性に関する要因分析」『農村計画学会誌 第24巻 Special Issue 号』ppS211-S216